



西の宮

猿投山の西の峯にあたる山頂付近の大字鷲取わしとりにあり、猿投神社を本社とする西方の奥の宮です。創建は東の宮と同じ記録を残すことから、ほぼ同じ時期の平安時代後期と推定されます。

このお宮には南朝方の忠臣児島高德こじまたかのりが寄進した木の葉丸という長巻(太刀)があったと伝えられています。境内に観音を本尊とする寺が建っていました。

(ここから約二〇〇m先)

御墓所(大碓命墓)

おほか

おおうすのみこと

大碓命は景行天皇の皇子で小碓命おおうすのみことと双子の兄弟といわれています。猿投山で蛇にかまれて亡くなったと伝えられ、これが縁で猿投神社の祭神として祀られています。

墓所は西の宮と隣接しており、石垣に囲まれて中は土盛の半円型になっています。土盛は七色の土を使って築かれ、棺は土器で作られたといわれています。なお、小碓命は日本武尊やまとたけのみこととして有名です。

(西の宮から約七〇m先)

猿投地域会議

菊石・猿投七滝遊歩道案内図

(全長866m・歩行約30分)

